

伝えよう・広げよう・キリストの心を

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No.25

聖家族有志会報

共に生きる

編集/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 アドラック内 /瀬下幸弘

しもつき
霜月
11
2012

長崎市稻佐山からの夜景



2012.10.7

世界新三大夜景のひとつです。
他の2つはモナコと香港です。



正所参学の「側」に立つて、その人々が、や、弱い立場に置かれている人々に加びながら、その解放の闘いに立ち、その運動をつくり、社会をめざしていっている。ACOは、差別されている人々と平和の実現される社会を

日本文化の一端を見学後、冷水峠を越えて筑豊へ向かいました。そこで彼女らが触れたものは：太宰府天満宮にて▶

10月12日、関釜フェリーで下関についた一行は、すぐにイエズス会の下関労働教育センターへ直行。既に用意された韓国語と日本語の翻訳されたレポートを通して、社員会の中で先立つて働いているクリストと出会う分かち合いを行ないました。その後、歓迎ミサと夕食会を開催。日韓交流と言えば何といつても話題となるのが「竹島問題」です。同じ信仰を持つていても、互いの国民としての立場から見える「領土問題」には微妙な温度差のあることを否めません。この日の交流でもその話題が少し出ましたが、翌日の「筑豊を訪ねて」が終えてから話し合うことになりました。13日朝7時50分、マイクロバスで太宰府天満宮と国立博物館を見学。（2p）



お知らせ

- ◆10月28日(日)ACO黙想会(下関労働教育センター)
午後1時～講話と黙想 中井神父
- ◆11月5日(月)社会福音部会(アドラック) …19時
- ◆11月11日(日)イチイチ祈りの会 修道院 …13時30分
- ◆11月11日(日)英語ミサと交流(黒崎) …15時
- ◆11月17日(土)ACO例会(天神町) …10時
- ◆11月18日(日)聖書特別講座
講師－森山神父(小倉教会) …14時
- ◆11月24日(土) キリスト者九条の会(西南KCC)
- ◆11月25日(日) 虹の会(分かち合い)黒崎 …ミサ後

老子の言葉

足るを知らぬことほど、大きな不幸はない。

足るを知る者は、富者である。

自分のいのちのことをくよくよ心配しない人は、それを大事がる人よりも賢い。

援助修道会 修道院より

11月11日:イチイチ祈りの会

場所は修道院聖堂、午後1時30分から。
どなたでもお出でください。

ACO日韓交流-筑豊を訪ねて

右の文は「写真万葉録・筑豊9—アリラン峠」(葦書房1986年)より。

10月13日(土)、午後1時。添田町にある旧古河大峰炭鉱ボタ山跡地の横に日向墓地と呼ばれる共同墓地の中に私たちはたたずんでいた。説明は続く。

「今この墓地の入口にペットのお墓がありました。かわいがっていたペットを思う優しい気持ちはわかります。そして私たちの前にあるこのボタ石の下に、強制連行され炭鉱労働で亡くなった人たちが眠っています。」金さんが同時通訳をする。

コピーされた3枚の文書がみんなに配られた。

「韓国語と日本語で書かれていますから、韓国の方に読んでいただきたいと思います。」

朗読が始まるとすぐに、涙が流れた。金さんが泣き出した。涙が止まらない。読み終えても言葉が見つからない。一瞬の静寂が祈りとなつた。

「ここ筑豊にはかつて15万人が朝鮮半島から連れてこられ、石炭採掘の労働力として働かれて多くの方が亡くなりました。この日向墓地は筑豊全体の象徴とも言えます。昭和19年の特高警察の資料コピーを持ってきました。麻生鉱業、麻生元首相の炭鉱ですが、約8千人の移入者のうち5千人近くが逃走しています。それほど過酷な実態を示しています。」当時の状況が説明された後、「毎年ここに来ています。戦後生まれの人たちには直接の戦争責任はありませんが、ここに立つことによって、平和を築く『平和責任』があることが分かります。…」そして「主よみもとに近づかん」を韓国語と日本語で歌った。涙は止まらない。

次に向ったのは韓国人徴用犠牲者慰靈碑。田川

여기저기에서 죽은사람은 많았는데
초상치는 것은 한 번도 못봤네
(அத்திடம் இல்லை நீான் கண்டு விடாது)

하프를 일마다 죽은사람 심어주고
수풀은 흙리에서 차장만 쳐다봤네
(廣西おこして死んだ子を乗せ
天體を仰いでむせび泣いたよ)

이 말을 듣고서 부장을 부른면서
나라 빙진 미숙은 요령계 서를 바
(これを聞いて胸倉をたたく
국의ない民族은こうまでみじめなのか)

봉우리 한바탕은 같이 맞지하며
하프를 세워서 헛울 부어보니
(櫻桃でなぐられるときは一緒に行こう)
봉우리를 힘껏返して炭を 까き出し)

죽은사람 옆에 두고 술담아 내라렸네
監督野郎은 뼈를 끌고 놓았네
死人はほつとけ 石炭を出せと言つたよ



市の最も高台に位置するところに建っている。5人は静かに祈った。

法光寺境内にも「朝鮮人炭鉱殉職者之碑」があるが、時間の関係で通り過ぎ、最後は

飯塚市の靈園内にある国際交流広場を訪れた。ここもまた人々の胸を打つ。歴史回廊は必見もの。

駆け足で筑豊を訪ねたが、共通点は「平和への願い」と「放置されている遺骨問題」である。これは「従軍慰安婦」「竹島」問題ともつながってくる。日本人が、侵略された側の立場で歴史をどこまで共有していくかで互いの距離が縮まってくる。そうすれば「竹島」が領土問題でなく「正しい歴史認識問題」と気づくはず。ましてや同じ信仰を持つなら、必ず解決の糸口が見つけられる。交流は祈りと信仰の実りであり、具体的な行動によって互いを大切に思う気持ちが生じてくる。夜の歓迎会は最高に盛り上がった。

【3人の感想】

- 私の姑は慰安婦にならない為に早めに結婚したと聞かされても、そういう悲しい話は避けてきました。現状を見せられた今、心痛くそんな歴史を作った日本が憎いです。しかし、その靈を慰めようとすることがあります。私がたく思いこの機会をいただいたことに感謝します。韓国に帰って歴史を直視します。
- 私たちを案内してくださいお礼申し上げます。亡くなったり、在日の人に思いを馳せます。日本人とも韓国人とも言えず暮らしていることが、どれだけ努力が必要だったかと思います。
- 林尚志神父からスヨンは玄界灘だねと言われたことがよみがえります。韓国人でも日本人でもない私は、いったい何人と泣いた日のことです。筑豊を訪ねて故郷を訪ねた想いでした。これからもライフワークとしてこのつながりを大切にします。



言葉は通じなくても笑顔は共通！

韓国から来日した5人の歌と踊りで、楽しく愉快な交わり。

信徒協 聖書週間特別講座

日 時：11月18日(日) 14時～16時30分
テマ：生活の中でのマルコ
講 師：森山信三神父（西新教会）
場 所：カトリック小倉教会

研修会記録集編集中

“いまと原発の廃止を”司教団メッセージから研修を9月22日行い、その記録集が11月中旬頃出来上がる予定。希望者には差し上げたいと思います。／瀬下まで

まもりたい！「内部被曝を生き抜く」DVD視聴

(鎌仲ひとみ監督)

9月30日 参加21名

高瀬紀子

2011年3月、福島原発事故によって拡散された放射性物質は、環境に溶け込み生態系に入り込んでしまいました。広島の168発分もの核爆発にも関わらず、その環境汚染による人体への影響はまだ予測するしかありません。呼吸や汚染された水、食品を通して引き起こされていく内部被曝は、この時代に生きる私たちの共通の問題となりました。

長年、被曝者を診てこられた広島、チェルノブイリ、福島を経験した4人の専門家の医師と、福島に生き続けることを決めた一家の暮らしを通して、この「内部被曝の時代」にどう対処し、生き抜いていくのかを問いかけています。

*4人の医師（肥田舜太郎氏・鎌田實氏・児玉龍彦氏・スモルニコワ氏）

司教団メッセージ「今すぐ、原発の廃止を」では人間が放射能と共に存は出来ないことを、倫理の問題として語っています。人間の染色体が、放射能汚染による内部被曝によって傷つくなど、そのようなことは神の望みではなかったはずです。54基もの原発を造り、「いのち」が最優先されない時代にしてしまった責任をどう取っていけばいいのでしょうか。

事故の収束もままならない現在、低線量の内部被曝は時間が経つから現れることがあります。映画ではチェルノブイリで医療活動された経験から、食べ物を線量測定し子どもの健康調査を定期的に続けていくこと、移住や保養に務めることなどが伝えられていました。

これからある未来ある子どもたちのために何ができるのか、子どもたちに寄り添う道を探していきたいと思いました。

原発事故から1年半の9月11日、福島第3回健康調査では3万8千人の子どもたちの中から一人甲状腺ガンと診断され、女子の55%の甲状腺にう胞が見つかったという報道が出されています。福島では集団疎開を求める声も上がっています。



DVD「内部被曝を生き抜く」は貸出が出来ます。
お問合せ先 Sr.高木まで TEL 093-621-5670

日本
カトリック
難民移住移動者委員会

全国研修会 in 大分 大分教会 (10/16~18)

「日本の教会とは、『日本人の教会』ではなく日本の教会。メンバーに国は関係ありません。外国人と日本人が一緒に創っていくのです。皆使命を持って共に生きるのです。」

松浦悟郎司教(難民移住移動者委員会委員長)

全国から70人程（福岡教区から2人の司祭、3人の信徒）の参加がありました。

1日目は、安部エミリーさん（大分教会信徒フィリピン人リーダー）

『キリスト中心の犠牲CHRIST-CENTERED SACRIFICES』と、岩本光弘さん（移住労働者と連帯する全国ネットワーク・共同代表、福岡教区水巻教会信徒）による『“改定入管法”施行後の事例報告』講演がありました。

2日目は、『福者ペトロ岐部神父出身地を訪ねる』と『移住労働者が働く造船所を訪ねる』の2コースに分かれての現地学習でした。現場に行って、会って、交わりました。夜の交流会では、大分の韓国人留学生による手品、フィリピン人グループによるマリア様の劇や民族舞踊なども披露され、楽しい交わりのひと時でした。

3日目の全体会で、仙台教区外国人支援センターのギャリー・ゲストヴェオ神父様からの報告があり「被災地はまだまだ大変です。弱くされている人のことを忘れず、真ん中において歩んでください。」と話されました。（報告／有吉）

南京大虐殺の真相とは

④

秋吉久紀夫

「こうやつてガーツと寄せて、そしてもう三百人から四百人の単位があつちこつちあつた。他の部隊が殺すのも見えた。」

古川康三氏（第十六師団歩兵第三三連隊第二機関銃中隊）

「紫金山から下りてきた中隊は南へ集結して一応落ち着いて、二、三日してから、「使役」と言う敗残兵の整理の任務を命じられました。重機関銃を担いで行つたんです。下関の揚子江の端の貨物駅ですね、すらと並んでいた貨車の中へ、中国の兵隊を、貨車に詰め込んでいましたんや。貨車の扉を開けるとあまりに人を詰め込みすぎたんですやろな、冬の極寒の時なのに、皆熱くて息苦しくて自分の衣服を脱ぎ捨て素っ裸になつていきました。それが記憶にありますな。フラフラに弱つた裸の兵たちを下ろして揚子江に流れてゆく筏に載せ、それを重機関銃で射撃したんですね。：聞いた話では、機関銃で処分する以外に、城壁の外郭に地雷を埋めて、その上に敗残兵を固めて、地雷で何百人とまとめて殺すというのがあつたようです。やはり私ら日本軍の仕事は、敗残兵を整理するだけでした。ともかく、敗残兵の処理をするのに相当日数がかかってなこんなことをしたんですね。他の中隊がこんなことした、あんなことして、殺したと南京にいる間にいつ

ぱい聞きました。こんなのが南京大虐殺というんですやろな。私たちがこんな惨いことを実行したことです、本当のことです。」

三木本一平氏（第十六師団歩兵第三三連隊二大隊）

20以上の話は、編著者の松岡環氏らが、南京攻略戦に直接従軍した二五〇人を超える日本軍の元兵士ひとりに四年間に亘って、心血そそいで直接会話を、編著者の松岡環氏らが、い聞き取った証言である。

六、米国人宣教師たちの証言から

次は日本軍の南京大虐殺について、当時南京に在住していた外国人の証言である。かれらは日本軍が南京を攻撃した時、設定した難民区で避難民の救済に奔走する米国人宣教師たちで、これは危険を冒して救済活動をしながら記録していたおびただしい資料と証言である。

その一人、国際安全区（難民区）にあつた鼓楼病院の医師ウイルソンの残した記録には、「一七歳の少年が持つて来た話によると、年のころ、一五歳から三〇歳くらいまでの中国人男性およそ一人が、十四日には、はしけ近くの川岸に連れだされたそうだ。そこで日本軍はかれらに野戦砲、手榴弾、機関銃をぶつ放した。ほとんどの死体が川の中に押しおとされ、残りの死体は山と積み上げられて焼かれたが、三人はかろうじて逃げのびてきただといふ。少年のあげた数字によると、一万人のうち六千人が元兵隊で、四千人が一般市民だった。彼は胸に弾丸の傷を負っているが、深刻なものではない」とあり、また同じ

「死体は満タンだつた。南京攻略戦は範囲が広かつたので多かつたんですね。私も門から入る時は門の所に要塞があつて、そこでも反撃していました。掃討の時はほとんど機関銃です。歩兵銃も在りました。重砲は攻略戦の時には参加して、大きかつたので山向こうの後方から撃っていました。岸で生き残りでも死体の山はたくさん見ました。城内のある

つている人を全部殲滅するのに一日かかるで撃っていたと思います。その後も下関に二、三日いました。城内のあたりでも死体の山はたくさん見ました。」

ムは次の文を日記に記していた。彼は工ール大学卒業後、連合キリスト教伝道団から派遣されて、金陵大学の付属施設で、教会学校を主宰し、病院のマネージャーとしてウイルソンを助けて活躍していた人物であった。

「思い出すのもおぞましい。一週間がたつてみると、どこをどう話したらよいか見当がつかない。このように酷い話は聞いたことも見たこともない。」

件は一晩に千件は起こり、昼間でもたくさんある。日本兵に反抗したり不服のような態度でもしようものなら、銃剣で刺し殺されるか、もしくは銃殺だ。このような殺害は日に数百件を書き連ねることができる。人民は狂乱している。私たち外国人さえ見れば、脆いて額にさすき助けを求めて来る。兵士らしいと嫌疑をかけられた者は、城外に連行され、それで銃殺される。その数は何百、何千人にもなる：私たち病院の職員も三回盗難にあい、万年筆、時計、お金をとられたり。セントーにいた貧しい難民でさえ、たびたび強盗にあい、身ぐるみはぎ取られ、唯一残つていた寝具まで持ち去られている。まだまだ続きそうだ。女性は朝に夜に連れ去られる。日本陸軍全體が建物には手当たり次第に侵入し、ややいたいほうだいをしている。金陵女子文理学院、金陵大学、ヒルクレスト学校のアメリカ国旗は頻繁に引き裂かれ、鼓樓病院のアメリカ人牧師マッカラが発生。」（次号）

アメリカ先住民インディアン古老の言葉 (K)

自分自身のことでも、
自分の世代のことでもなく、
来るべき世代の、私たちの孫や、
まだ生まれてもいない大地からやって
くる新しい生命に思いを馳せる。

・・・・・

9月号掲載の坂村真民さん(詩人)の「あ
とから来る者のために」と同じですね。
“洋の東西を問わず” 思いはひとつ。

10月号ありがとう (YさんのFAXより)

「生きているからいろんなことがありますよ」「沈黙は共犯者」「神様の道具として生きる」「南京大虐殺の真相」「とびきりの『名刺』」「ホヤケリー＆うさぎ」「ハンセン病問題での阿部さんの悲しみの極み」「カトリックのデモ」……

本当にたくさんのメッセージを大変ありがとうございました。

宮崎の友人Mさんからのお知らせ

「伊東マンショって聞いたことあるでしょう。400年前に、日本人として初めてヨーロッパを公式訪問して日本に“世界”を持ち帰った人で司祭の道を全うした人です。宮崎県西都市生まれで、今年『伊東マンショ没後400年顕彰記念祭』が市民の方たち主催で開かれるんです。カトリック教会以上に、市民がマンショを誇りに思っていますよ。都於郡城址(西都市)の本丸跡地には伊東マンショの像が建っています。この記念祭を主催している方たちがカトリックに“没後400年記念ミサ”を申し入れ、ミサをすることになりました。でもね、教会が宣伝にあまり力を入れてないようで、どうしたものかと少し悩んでいます。地域の中に教会がありながら、地域に溶け込もうとしないようです。まるで教会が“地域にいる信者だけのもの”

のような感じがします。

あっ、愚痴を聞いてください有難う。

11月10日午後1時から宮崎市のメディキッド県民文化センター。11日は14時から宮崎市プラザオルブライトホールで。宮崎に来られる方がいましたら立ち寄ってくださいね。



わあ～北海道みたい (R)

一面に広がるコスモスの花、花、花。10月10日に職場の遠足で海の中道へ。こんなところがあつたなんて知りませんでした。思わずカメラを向きました。「共に生きる」に載せてもらえるかしら。

ツイッター

さんごうせいほ
塹壕の聖母 (松永武・道子)

札幌地区が平和旬間に寄せて作成しました。

正義と平和長崎大会で御会いした札幌の松永武・道子さんご夫妻が、「塹壕の聖母-平和への願い」という冊子を送って下さいました。カトリック北26条教会主任司祭の場崎神父が発行しました。

20冊ありますので、お分けいたします。無料



A5判 76ページ

タイトルについて(冊子より)
第2次大戦のレニングラードで壮絶な市街戦が起きました。塹壕の中で、軍医がクリスマスに聖母子像を地図の裏に書き主の降誕祭を祝おうとしたのです(表紙の絵)。これを見た仲間の兵士たちも祈りを捧げた。・・・わたしも、もしこの塹壕の中にいたならば同じような気持ちになります。ですからこの絵が好きなのです。绝望の中に希望を見出したいと望むからでしょう。

昭和30年代のなつかしさ (A)

「ALWAYS続三丁目の夕日」の映画を見ました。白黒テレビ、うちわ、洗濯機の手回し脱水、ミゼット、メンコ、みんなが前向きに助け合って暮す。…どれも懐かしいです。たしかにそんな豊かな時代がありました。やがて石炭から石油へ、経済発展、オール電化、バブル崩壊、若い人たちの失業。電話器が携帯そしてスマートホンへ。一日中画面と向き合う無機質な時代の到来。会話をなくした社会と家庭。(教会も随分対話が減ってしまいました。)今からでも遅くないと思います。時には何かを手放しませんか。

ハンセン病問題から見えるもの

く 差別の垣根を取り除くためにく (6)

資料館での説明

資料館(写真撮影禁止)で学芸員から説明を受けました。

1、コンクリートの壁：外にあつた壁を切り取って保存してあります。内側に傾いているのは、中の患者が外に出ないようになります。結果として人生を奪ってしまいました。壁の無いところは堀がありました。

2、療養所の出来る以前：路上にうずくまる患者の写真です。ハンセン病は外見に症状が表れるので差別されました。江戸時代は遺伝病と言われ、家を出て物乞いをすることがありました。江戸終わり頃に患者たちが数力所に集まる所があり、熊本の本妙寺もそのひとつです。加藤清政がらい病だつたと言い伝えられ、ここに集まつたと言われています。本妙寺は桜の名所でしたが、明治になつてハンナ・リデルが「まことにうららかなる桜のその下に、この上もない悲惨な状況あり」と物乞いの状況に驚いたといふことです。既にヨーロッパでは恐れる病気ではなくなつていたので、リデルは回春病院を作りました。現在は熊本学園大学の裏に「リデル・ライト記念館」としてその一部が残っています。

3、その後、恵楓園が出来る：これは日光回転浴と呼ばれ、回春病院から持ち込まれたもの。これはカトリックのコール神父が琵琶崎に待労院を作りその後、5人のシスターが受けついだ写真です。現在「コウノトリ病院」として有名な慈恵病院敷地内に待労院があります。これらは、当時のハンセン病患者を外国人が救おうとした動きだつたわけです。

4、ライ予防に関する法律を作る：明治40年に作られました。当初は家の無い病人を引き取る方針で、全国に5力所療養所が作られました。恵楓園も100年前に出来ました。家が豊かな人は入所す

る必要がなかつたのです。その23年後(昭和6年)、癪予防法が作られ全ての患者が入れられることになりました。一生外に出ることがない生涯隔離です。たくさんの患者がここで生活するようになります。病院ではなく村のような形になりました。宗教施設、小学校、図書館、火葬場、納骨堂がありました。この写真は解剖願書です。11才の子どもが署名していますが、自分から解剖を願うとは思われませんので、強制的に書かせられたのかも。こんな中で、患者たちは生の向上を目指し、入所者自治会が出来ました。これは大風子(たいふうし)の木の実です。種の油を取り出し筋肉注射を直接してしまいました。油を熱しているので熱くて大変痛いのですが、この注射は免疫力を高めるためのもので、ハンセン病を防ぐものではありません。

効く人と効かない人が当然いたわけです。

5、アメリカでプロミン開発される：らい菌に対し直接作用する薬で、日本でも戦後開発され、これは昭和26年に退所する人の写真です。子供達がうらやましそうに見ています。この鐘は塔の上にあります。

りすぐきれいな音色で、希望の鐘とされました。いつかこの鐘の音を聞きながら、園を去つていく・・そして薬があれば

いつかは出られる。しかし360名の回復者がいますが、故郷に帰つても差別される。仕事

ついていく・・そして薬があれば60名の回復者がいます、故郷に就けない。家族が皆亡くなつて

ている。こういった人々の生活が続いている以上、ハンセン病問題は続いているとも言えるの

ではないでしょうか。カラオケ、ゲートボール、絵画、映写会など楽しいこともあります、しかし、暗い時代であつたことを

忘れてはなりません。(次号へ)

編・集・後・記

先月号で、平和デモ参加者に「在特会」が罵声をあびせたと書いたところ「在特会って？」と質問されました。「在日韓国人・朝鮮人の(特別永住資格など)特権を許さない市民の会」とネットにありました。しかしどんなグループであれ、意にそわないと罵声を投げかけるよりも彼らもデモを行ない、仮に私たちとすれ違う場に遭遇すれば互いに手を振り合えばいいでしょう。子どもの頃、山で戦争ごっこをし、さんざん“テキ”をやっつけました。でも夕暮れになるとその“テキ”と仲良く家路に…。平和の鍵はここが原点かも(瀬下)